

# 令和2年度事業報告書

自 令和 2年 4月 1日  
至 令和 3年 3月31日

## 事業の概要

令和2年度は、感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が2度（4月～5月及び1月～3月）発出されるなど、新型コロナウイルスにより公益事業は大きな影響を受けた。講演会では参加人数を大幅に絞り、一部の演者はリモートで講演して頂く形で開催した一方で、開催を見送ったものもあった。こうした状況に対応するため、オンラインセミナーなどWebを利用した情報発信にも取り組み、聴講者数が従来より顕著に増加する傾向が認められた。公益活動を行う上で制約の多い年度であったが、Webの利用など公益活動の新たなツールが得られた。

さて、近年資源量が増大傾向にあるマイワシは、3月に発表された（国研）水産研究・教育機構の2020年度太平洋いわし類長期漁海況予報（2021年4月～7月）によれば、房総～三陸海域、道東海域への来遊量は昨年を上回ると予測されており、安定した漁獲が期待される。

当協会では魚油及び魚粉の生産状況を迅速に把握するため、（公社）日本フィッシュ・ミール協会の協力を得て、2020年の各魚粉工場から提供される生産データをまとめる方式で調査を行った。データの詳細は後述の『2020年水産油脂統計年鑑』に記載するが、魚粉・魚油の生産実績の概要は下表のとおりである。

	2019年	2020年	前年比
1. 原料処理量			
ラウンド	225,450トン	238,723トン	105.9%
残滓	664,843トン	663,620トン	99.8%
合計	890,293トン	902,343トン	101.4%
2. 生産量			
			歩留
魚油	74,025トン	78,433トン（8.7%）	106.0%
魚粉	188,524トン	194,484トン（21.6%）	103.2%

この他、魚油等油脂に関連するデータとして、国内・国外における漁獲量、各国の魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格、植物油脂等の消費量、養殖魚及び養魚飼料の生産量等の収集を行った。また、主要港で水揚げされたマイワシ、マサバの栄養成分を中心とした化学分析を（一財）日本食品分析センターに依頼し調査を行った。これらの調査データについては取りまとめを行い『2020年水産油脂統計年鑑』として2021年5月に刊行を予定している。

講演会のうち「水産油脂資源講演会」は参加者数を絞りリアルで開催し、「水産油脂技術懇話会」はWebセミナーの形で実施した。これらは『水産油脂資源講演会記録』と『水産油脂技術懇話会記録』として刊行した。これまでDHA・EPA協議会と共催で開催していた「公開講演会」は、コロナ禍の影響により開催を見合わせた。定期刊行物としては『2019年水産油脂統計年鑑』と関心の高いテーマなどを取り上げた『JMOAレポート』を刊行した。ホームページは重要な情報発信のツールとして随時更新し内容の充実に努めた。

## 1. 調査研究

### 1) 国内外の水産油脂及び関連する物資の資源・生産・流通・消費等についての調査

- ① (公社)日本フィッシュ・ミール協会に2020年における国内の原料処理量、魚油・魚粉の生産量・用途について調査を依頼した。
- ② 国内外の資料を収集し漁獲量、魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格を調査した。また、魚油・魚粉の消費と関わりのある配合飼料生産量や水産養殖等のデータを取りまとめた。

### 2) 水産油脂及び関連物資の機能・性状及び加工利用等に関する調査研究

- ① 銚子港(千葉県)に水揚げされたマイワシ、マサバ並びに釧路港(北海道)に水揚げされたマイワシについて一般成分、脂肪酸組成等の脂質成分を分析した。
- ② 国産・輸入魚油の性状及び脂肪酸組成等について分析した。また、国産・輸入魚粉についても基礎成分をはじめアミノ酸組成等を分析した。

## 2. 広報出版

### 1) 講演会等の開催

- ① 水産油脂の資源及び流通に関する講演会  
2020年8月21日、「令和2年度水産油脂資源講演会」をアイビーホール青学会館にて開催した。実施にあたっては新型コロナウイルスの感染予防に努め、参加者数を大幅に絞るなど東京都感染拡大防止ガイドラインを考慮した。また、参加できなかった人のためには講師の先生が作成された音声付スライドをオンラインにより後日配信した。

#### 【演題及び講師】

「マイワシの資源動向と管理目標案について」

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所  
水産資源研究センター 浮魚資源部

部長 西田 宏 先生

「養殖業へのゲノム編集技術の可能性」

京都大学大学院 農学研究科 応用生物科学専攻 海洋生物機能学分野

助教 木下 政人 先生

「養魚飼料開発研究における最新動向 ～魚粉・魚油代替研究を中心に～」

鹿児島大学

理事・副学長 越塩 俊介 先生

(越塩先生はオンラインによるリモート講演)

同講演会の内容はオンライン配信により、10月14日及び10月16日の2回実施した。

- ② 水産油脂及び関連物質等の研究・開発に関するセミナー

「水産油脂技術懇話会」は例年2回開催しているが、前期は新型コロナウイルスの影響で開催を見送り、後期は11月27日にオンラインセミナーの形式で開催した。

## 【演題及び講師】

「第 35 回水産油脂技術懇話会」

「腸内細菌による食用油由来、多価不飽和脂肪酸代謝と肥満への影響」

京都大学 大学院生命科学研究科 生体システム学分野

教授 木村 郁夫 先生

### ③ DHA・EPA協議会と公開講演会の共催

本年度は新型コロナウイルスの影響により開催を見合わせた。

## 2) 出版

① 『2019 年 水産油脂統計年鑑』を 5 月に刊行した。

② 『JMOA レポートNo.20 水産物の認証制度・エコラベルの発展過程と日本における普及』を 7 月に刊行した。

[筆者：東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻 国際農業開発コース

助教 石原 広恵 氏]

③ 『令和 2 年度水産油脂資源講演会記録』を 11 月に刊行した。

④ 『JMOA レポートNo.21 ビタミンDの生理活性に関する最近の知見』を 1 月に刊行した。

[筆者：大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 健康栄養学科 教授 津川 尚子 氏]

⑤ 『第 35 回水産油脂技術懇話会記録 腸内細菌による食用油由来、多価不飽和脂肪酸代謝と肥満への影響』を 3 月に刊行した。

## 3) ホームページ

① 講演会の開催及び出版物の発刊の案内を随時掲載した。

② 「魚油・魚粉の貿易統計」は魚油・魚粉の輸入量・価格などを毎月更新した。

③ コンテンツの充実を図った（7 月に「コラム」を 2 つ、また 8 月には「知っておきたい基礎知識」を 6 項目新たに掲載した）。

④ 利用状況については定期的にアクセス数をモニターした。下表のとおり総アクセス数は 2018 年度以降は 6 万件前後と安定的であり、「知っておきたい基礎知識」はコンテンツの中でアクセス数が一番多く、順調な伸びを示したが、2019 年度からは頭打ちの状態である。

	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度
総アクセス	61,842	62,547	59,396	37,766
知っておきたい基礎知識	19,077	20,093	16,834	12,396

## 3. 土地・建物施設等の賃貸及びその維持・管理

① 本館及び新館を公益法人に賃貸し管理・運営を行った。

② 本館エレベーター更新工事を 9 月に実施した。

③ 新館 3 階小会議室の断熱工事を 7 月に実施した。

## 4. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

① DHA・EPA協議会の事務局を当会館内に置き、同協議会の活動の支援、協力を行った。

- ② (公社) 日本油化学会・規格試験法委員会へ基準油脂分析試験法の見直し等のため委員を派遣した。
- ③ 資金運用規程及び資金運用指針に従い資金運用を行い、運用成績に係る目標値は全て達成し、正味財産額の大幅増の原動力となった。

## 5. 庶務事項その他

<会 議>

- ① 定時理事会 3回
- ② 定時評議員会 1回 (書面決議)
- ③ 評議員選定委員会 1回

<その他>

- ① 内閣府に公益目的支出計画実施報告書を6月に提出した。
- ② 賛助員 21名

以 上